

××

ティファニーで朝食を

××

自分を取り巻く様々な事情で進学を諦め、やむに已まれなく15歳で上京した自分は、もう二度と栃木には帰れないだろうなあといい思いで、後ろ髪を惹かれながら故郷を後にしました。見つけた住み込みの仕事は理容室。通信教育課程で学校に通わせていただき資格を取得した頃に、オーナーの先生が病に倒れましたので、次の仕事を探しました。今度は美容室に勤務し、美容学校へ同様通信教育課程で通わせていただき資格を取得しました。通信教育という制度では後に、宇都宮高校も、総代で卒業させていただきました。

美容師になつてからは、着付けやメイクアップの研究会にも、たくさん通いました。髪を緑色にし、知人のブランドの服を着てメイクしたままで都内を歩いたりしていました。お金のなかった時代でしたから、服を頂けるといふ事で、楽しんでいましたがあの時代相当目立ちましたね(笑)。また技術を高めるために様々な施設にボランティアで、髪を切りに通いました。そこで社会の底辺で生きる人や社会貢献する会社のもようなど美容界では学べないことをたくさん学びました。

るわけがないと諦めて生きていたところに、転機が訪れます。西那須野という町に住む叔母が他界した後、空き家になってしまった家に住んでくれないかと。誰も知っている人がいない街ではありましたが喜んで受け入れました。信用も、お金もない自分にとって大きなチャンスでした。叔母の家を相続し独立出来ました。いまでも叔母と叔父の仏壇とお墓を預かっておりますので毎朝、手を合わせ感謝の気持ちを伝えております。こうして、こんな自分が、この街に住まわせて頂けるとにも感謝しそれを形に表すことが、地域の生活に困窮している子供たちへの福祉カットを始めたきっかけです。

余談ですが、私は自分の名前を変えました。名前の最後の二文字が子供のころから生理的に合わないと感じていて、名前の変更方を学び、資料を20年分集めて、裁判所に行き正式に換えました。大喜生、太は、多くの人を。喜は、喜ばせて。生は、生きよう。多くの人を喜ばせられる人になるように生きよう。LGBTの方々の気持ちも、ちょっと理解できますね。

生きていくうえで不可能な夢もあります。夢は思えば叶うなんてことは、ありません。ただ夢を持ったなら叶えるための不断の努力と多くの知恵と友人知人という仲間が必要です。



ある時、技術コンテスト東京大会にて4位という成績を取った時に、多店舗展開をしていた大型美容室の技術部長としてハンティングされ、やっと生活が安定した時に観た映画がオーディリー・ヘップバーンの【ティファニーで朝食を】でした。映画のワンシーンでこんな会話があります。売れない作家の彼と、身売りしていく彼女が、最後のデートを楽しみます。セントラルパークを出て右手にあのプラザ合意のプラザホテル、左手に宝石店のティファニーがあります。二人は店に入ります。そして彼は、先ほど公園で買求めたカモの餌の袋に入っていたアルミの指輪を取り出して、店員さんにごう頼みます。これに彼女のインシヤルを入れてくれないかと、店員さんはこう答えます。これはティファニーの商品ではございませんね、でもお二人の幸せのために入れて差し上げましょう。なぜならティファニーは、真心も売っております。このセリフに、背中に寒気がたつほど感動しました。

ああ、自分もいつかお店が持てたなら、真心を売りたい！そんなことがありました。ここに、店名の由来、ティファニーのある五番街があるのです。

でも両親もいない頼るべき保証人がいない自分が店を持てそうしていて目の前に来たチャンスを掴める自分にしておかなければなりません。私は、独立した時からこう感じていたことがあります。美容師は美容業界だけで有名になれば満足してしまう傾向がある、それはどうだろうと？もっと社会に関わって生きていかなければならないのではないかと。様々な異業種の経営者の方々との交流や、広い視野を持つための不断の勉強が必要だと思いついに至ります。今、地元商店会会長を経て商工会副会長を任じられております。更に多くの市の行政にかかわる仕事も委嘱され、少しでも社会のお役に立ちたいと願い微力ながら頑張っております。

きつと皆さんのお知り合いの美容師さんもそんな思いで生きています。

I'm glad to talk to you.

美容師に聞いてみたい質問があれば、是非編集部までお知らせください。



五番街代表 大倉 大喜生



hair design 五番街

TEL.0287-36-6811
那須塩原市太夫塚
6-232-213

(文 五番街代表 大倉大喜生)